

「自立活動コンテンツ作成事業」について

千葉県教育振興部特別支援教育課指導主事 たかなし 高梨 みさこ 美佐子

1 背景

昨年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行われた臨時休校中、児童生徒は家庭での学習を余儀なくされた。県教育委員会として、これまでも家庭での学習支援、自立活動の充実について様々な取組を行ってきたが、今回、その状況の下、家庭での学習の重要性を改めて認識することになった。特に、小・中学校の特別支援学級での指導や通級による指導を受けている児童生徒に対する、家庭での自立活動の指導・支援の困難さがより明確になった。実際、保護者からは、「学校から自立活動の課題が出されたが、家庭で子供にどのように取り組ませてよいかわからない。」等の声があがってきた。

県教育委員会では、休校期間中の学習上又は生活上の支援として、インターネット上に自立活動に関する動画をアップロードし、多くの児童生徒、保護者等が視聴できるようにした。「家庭で子供と一緒に取り組むことができた。」「学校での自立活動の内容がよくわかった。」などの肯定的な意見が多く聞かれた。

一方、経験の浅い特別支援学級担任や通級による指導の担当が増えていることや、多くの学校で特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する指導の在り方、特に自立活動の指導が課題となっていることから、特別支援教育に携わる教員の自立活動に対する専門性の向上が求められている。中には、「身体の動き等の具体的な指導をどのように行ったらよいのか。」「発達障害のある子供の心の安定を

図るためにはどのような手立てがあるのだろうか。」などと悩みながら、日々、指導や支援にあたっている教員も少なくない。

そこで、今回、「障害のある児童生徒の学習支援（自立活動）の充実」を目指して自立活動コンテンツを作成し、インターネット上で配信することで、児童生徒や保護者、特別支援教育に携わる教員が有効に活用できるようにすることとした。また、学校関係者に限らず、広く特別支援教育について知ってもらい、理解につながることも期待している。

2 事業の位置付け

- (1)自立活動の充実
- (2)家庭学習の充実
- (3)自主研修や研修会での活用等による、特別支援教育に携わる教員の専門性の向上（特に、小・中学校）
- (4)特別支援教育の理解推進
- (5)今後起こり得る自然災害・感染症拡大等による臨時休校の際の学びの保障

3 自立活動コンテンツの概要

県発達障害者支援センターや県立特別支援学校長等の指導・助言のもと、教育事務所、県総合教育センター特別支援教育部、県特別支援教育課の指導主事や研究指導主事、県立特別支援学校の授業づくりコーディネーター等が、40本の自立活動コンテンツの作成にあたった。

コンテンツの内容については、小・中学校

に在籍する障害のある児童生徒自らが、障害による学習上又は生活上の困難さ（見え方、聴こえ、姿勢の保持と運動・動作、言語の受容と表出、文字や文章を書くこと、文章を読むこと、計算すること、集中すること、感情のコントロール、他者の意図や感情の理解、整理整頓、認知、環境の変化への対応、コミュニケーション、病気の理解や不安への対応）の軽減・改善に向けて取り組めるような内容となっており、1本あたり約15分間の時間となっている。

◆コンテンツの紹介◆

「いかり」となかよくなるう①<視聴時間12分>

(1)導入【00:00～】

- ①今日の課題を確認しよう。
- ②様々な感情があることを知ろう。
- ③「いかり」と仲良くするためにはどうする？

(2)こんな時どうする？【02:25～】

- ①場面を見て考えよう。<ドッジボール編>
- ②友達を叩いちゃった。何があったのかな？
- ③「場面を巻き戻して」解決方法を考えよう。
- ④「叩く」⇒「言葉で伝える」へ
- ⑤場面を見て考えよう。<ノート提出編>
- ⑥大声で叫んでいる。何があったのかな？
- ⑦「場面を巻き戻して」解決方法を考えよう。
- ⑧「大声を出す」⇒「順番を守って並ぶ」へ

(3)まとめ【10:25～】

- ①行動を別の方法に換えると相手に自分の気持ちが伝わるね。
- ②誰にでも「いかり」の感情はあるよ。『自分も相手も傷つけない方法』を一緒に考えてみよう。



ここで、留意することは、自立活動は、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程によるものであることから、このコンテンツ全てがそのまま使用できるものではないということである。そのため、事前に、教員がコンテンツを視聴し、当該児童生徒に必要な部分を確認してから学習を組むことができ

るよう、現在作成中である「自立活動動画手引集」を参照することが望ましい。また、家庭での活用の際においても、保護者へコンテンツの趣旨を説明した上で視聴できるようにすることが必要である。

◆自立活動動画手引集より◆

～こんな場面で使えます～

対象児童生徒の困難さ

- ・衝動的な行動のみに注目され、結果的にわがまま、乱暴者等と言われることにつながりやすい。
- ・「自分は駄目な人間だ」と自己肯定感が低下しやすい。
- ・相手の言動や行動の意図が読み取りにくい。

困難さの背景

- ・言葉を字義どおりに受け取りやすい。
- ・状況が正しく理解されずに、適切な行動につなげにくい。
- ・刺激に対して、反応が速かったり、過激だったりする。
- ・怒りの沸点が低い。

自立活動の視点・手立て

- ・具体的な場面設定におけるソーシャルスキルトレーニング(場面の振り返り)や怒りを鎮めるための具体的な方法の提示をする。
- ・自分に合う方法を見つける。

コンテンツのねらい

様々な場面で生じる『いかり』の感情を適切に解消するための自分に合う方法を増やす。

4 今後のスケジュール

現在、県教育委員会では、収録した動画の編集及び最終確認をし、第1版として約20本の動画をインターネット上にアップロードしていくよう準備を進めている。また、「自立活動動画手引集」も年度末から来年度始めにかけて、小・中学校、特別支援学校等に配付する予定である。

研修履歴システム「Asttra（アストラ）」の履歴活用方法と研修支援機能について

県総合教育センター研修企画部

1 はじめに

研修履歴システム「Asttra（アストラ）」（以下、「Asttra」）は、令和2年4月1日から本格的に運用を始め、今年度で2年目となる。

「自ら学び続ける教職員の育成」を目指して開発した履歴システムを十分に活用して、自己のキャリア形成を計画的に実現していくことが期待される。

今回は、自己のキャリア形成につなげるための履歴の活用方法と、システムの運用開始以降に改修した研修支援機能（eラーニング機能）について説明する。

機能の紹介や研修受講における支援機能の活用方法等については、「千葉教育」令和2年度桜号（No.667）の情報アラカルト（P32、33）で詳しく説明をしているので併せて参考にされたい。

2 履歴の活用方法

(1) グラフから分析する活用方法



【図1】「Asttra」教職員研修履歴（グラフ）

①受講した内容を「千葉県・千葉市教員等育成指標（以下、育成指標）」の四つの柱（A 素養・B 学習指導・C 生徒指導・D チーム学校）と16の構成要素に振り分け、棒グラフ

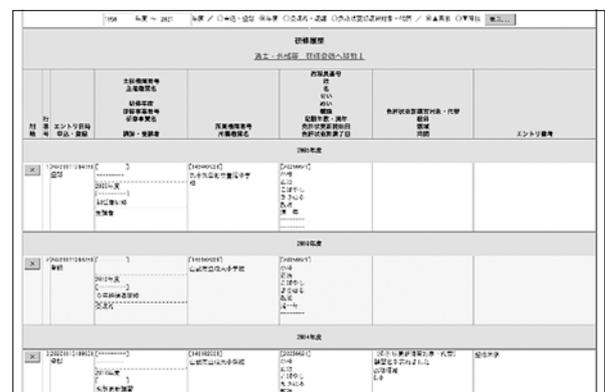
で表示している。研修の方向性を決めるときに育成指標を基にグラフの凹凸を分析することで、自身に必要な研修を導き出す手段とする。

②図1の吹き出しで拡大したボタンをクリックするとグラフが変化する。

- 合計
- 合計（強み・弱みを強調表示）
- 傾斜合計（10年より前のポイントは減衰して集計）
- 傾斜合計（10年より前のポイントは減衰して集計、強み・弱みを強調表示）
- 年度ごと（過去10年間分を表示）

以上の5種類のグラフに変更することができる。研修選択の目的に応じてグラフを使い分け、次年度以降の研修計画の作成に生かしてほしい。

(2) 文字履歴から分析する活用方法



【図2】「Asttra」教職員研修履歴（文字）

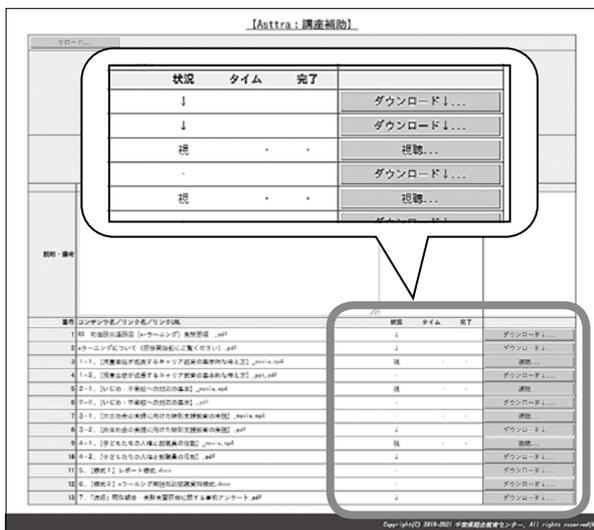
①グラフ表示の下に過去に受講した研修情報を表示している。「Asttra」を通して申し込み、受講した研修の履歴は自動で記録される。これとは別に、「Asttra」対象外の

研修を受講した場合、手入力で履歴を残すことができる。グラフには反映されないが記録に残しておくことで今後の研修選択の参考とすることができる。現段階では、大学等で受講した免許状更新講習の履歴を残すことも可能である。

②受講履歴の他に、自身が研修の講師を務めた履歴を残すこともできる。どの研修の講師をいつ務めたのかという履歴も今後の研修受講の参考とすることができる。

3 研修を支援する新機能について

令和3年12月から新機能を追加した。新しい機能の1点目は、自身の研修の実施状況を確認することができるようになったことである。具体的には、図3のように、資料をダウンロードすると、状況の表記に「↓」と表示されたり、動画を視聴したら「視」と表示されたりと、現在の受講状況が視覚的に確認できるようになった。



【図3】新搭載のeラーニング画面

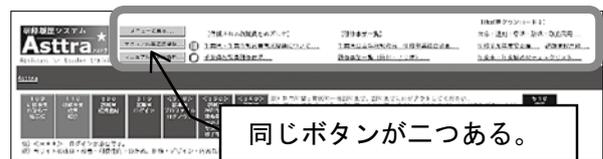
2点目は動画視聴の新機能である。動画を視聴する際は、図4の画面が表示され、「再生」ボタンをクリックする。再生速度の調節ができ、自身の聞き取りやすい速度で動画再生することが可能となった。視聴をしたところより先には映像を飛ばすことができないの

で、映像を先送りしすぎて大事な場面を見逃してしまう心配はない。



【図4】eラーニング動画視聴画面

4 周知事項について



【図5】「Asttra」の機能表示画面

研修を受講するにあたり支援機能を知り、より効果的な活用ができるようにしてほしい。図5の太枠内で、「Asttra」の操作マニュアルや、Q&A、県教育委員会等が主催する研修事業一覧等のダウンロードができる。年度末及び年度初めの確認事項等も掲載しているので是非とも目を通してほしい。太枠内のボタンには、「マニュアル等活用資料」が二つある。下のボタンは、クラウドサーバへのアクセスに制限がある場合でも資料が閲覧できるボタンであるので活用してほしい。

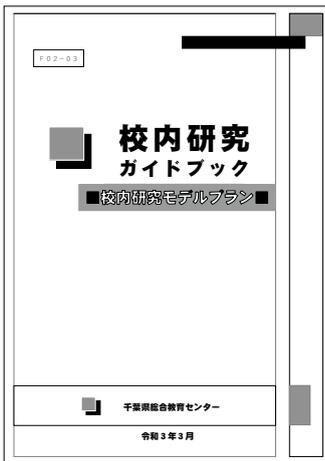
5 おわりに

利用者の声を反映し、令和4年3月1日(火)から「Asttra」のトップ画面をリニューアルする。画面の視認性を高め、研修履歴システム「Asttra」が、有効的に利活用されることにより、「自ら学び続ける教職員」の育成につながることを期待している。

校内研究ガイドブック～校内研究モデルプラン～

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当

【校内研究ガイドブック】
令和3年3月発行



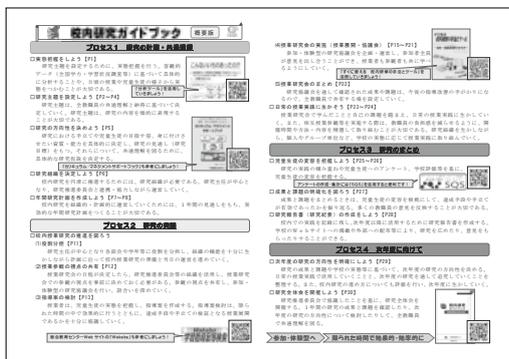
本ガイドブックは、「限られた時間で効果的・効率的に」「参加・体験型で」「学びの成果を実感できる」をキーワードに、校内研究モデルプランを作成し、冊子としてまとめたものである。具体的な実践例(取組例)を多く取り上げ、手立ての工夫やポイントをはじめ、参考資料や巻末資料も多く掲載している。限られた時間の中で、効果的・効率的に校内研究を進めていくことで、先生方の負担感や多忙感を解消するとともに、参加・体験型での協議を取り入れ、学びの成果を実感できる校内研究にしていくことで、教職員の「授業改善」「授業力向上」や児童生徒の資質・能力の向上へとつながることを期待している。

《ガイドブックQRコード》



【リーフレット (概要版)】

表面には、校内研究モデルプランの流れを簡潔に示し、研究の進捗状況をチェックしながら確認できるようにしている。また、記載したQRコードからは、先進校の研究協議の様子を動画で視聴したり、参考文献等を確認したりできる。なお、動画には協議会の進め方や、実施のポイント等の解説を加えている。



裏面には、校内研究モデルプランの内容を示し、関連するガイドブックのページや、研究を進めていく際に参考となる資料等を掲載している。また、県総合教育センターがこれまでに発行した様々な資料(ガイドブック等)や「学習指導案等検索」のWebページをすぐに活用できるよう、QRコードを掲載している。

《リーフレットQRコード》



この校内研究ガイドブックとリーフレットをはじめ、県総合教育センターで作成し、発行している様々なガイドブック等は、当センターWebサイトからダウンロードできるので、校内研修における様々な場面で、ぜひ、活用していただきたい。

令和3年度マリンサイエンスギャラリー 「千葉県エビ・カニ大集合！」

会期：令和4年2月26日（土）～5月8日（日）

県立中央博物館分館海の博物館

1 展示室のエビ・カニ・ヤドカリ

県立中央博物館分館海の博物館は、豊かな自然に囲まれた外房にある自然誌博物館で、利用者を千葉県の自然に誘うことを目的とした様々な活動を行っている。常設展示もそのひとつで、自然散策に役立つよう、周辺の海岸線の縮小模型やそこで見られる海洋生物の剥製や標本が並ぶ。エビやカニ、ヤドカリなど甲殻類の種類数は展示資料の中でも比較的多い方だが、調査研究を進めた結果、お膝元である南房総にたくさん生息しているにもかかわらず、常設展示から漏れていた種類の存在が判明した。そのいくつかをここに紹介したい。

2 南房総からのエビ・カニ新発見

(1)共生性エビ類の新種・新記録種

南房総にはレジャーとしてスキューバダイビングを楽しむことのできるポイントがある。デジタルカメラの普及により、水中で生物を撮影するダイバーが増えてきた。人気のある被写体の中には、イソギンチャクやヒトデなどの体表で暮らす小さな共生性エビ類がいる。これらのエビ類は、ユニークな生活様式ばかりでなく、美しい色彩をもつという点で人気である。千葉県ではこれまで潜水機器を使った甲殻類の標本収集が進められていなかったため、共生性エビ類には新種や千葉県新記録となる種が含まれていた。

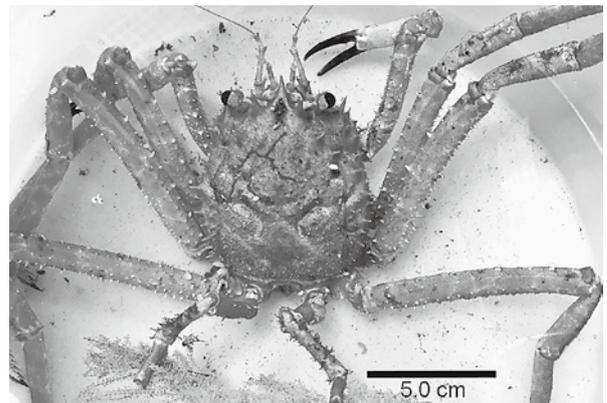
(2)理想郷のカニ

常設展示室では、博物館近くにある鵜原理想郷を紹介している。当館職員は、今、理想郷を訪ねるとどのような花や昆虫が見られる

のかを定期的にモニタリングし、その成果を更新している。その過程で、理想郷に川はないが、アカテガニやベンケイガニといった、普通河川下流域にいるカニが多数生息していることが分かった。さらに、メスのカニが夏期の満月と新月の夜、理想郷の雑木林の中から海岸に降り、腹部に抱えた卵から幼生を放出する行動を観察することもできた。

(3)漁業で混獲される深海性カニ類

漁業は南房総の基幹産業のひとつであり、中でもキンメダイは外房のブランドとして知られている。この魚は水深300～400mから釣り上げられるが、しばしばキンメダイ用の餌にしがみついた深海性のカニ類が混獲されることがある。地元漁業者のご厚意により、これらのカニが当館へ提供されてきた。そのうち最も数が多いのは、オオホモラという種類であることが分かった。



深海から釣り上げられたオオホモラ

海の博物館では、マリンサイエンスギャラリー「千葉県エビ・カニ大集合！」と題し、上述の種類をはじめ、千葉県で見られるエビやカニの多様な顔ぶれを紹介する。